

はじめに

臨床現場に潜む " 見えない壁 " を乗り越えるために

桜咲く4月は、新社会人として臨床の現場に初期研修医の先生方がやってくる希望の春です。私自身ありがたいことに、新しい仲間たちへのオリエンテーションやレクチャーをする機会をいただくことも多くなりました。期待と不安を抱えた、初々しいみんなの顔を見ながら話をするたびに、どうか全員が最後まで、健やかに実りある臨床研修ができますようにと祈りにも似た想いを抱きます。

臨床研修は臨床医としてキャリアを積んでいくうえでは、誰もが修了しなければならない2年間です。一方で、医師として働く全員が経験する研修とはいえ、決して楽な道のりではありません。医師国家試験の勉強では学ぶことがないにもかかわらず、臨床現場に必ず潜んでいる"見えない壁"にぶつかり、時には潰されそうになる同期や後輩をたくさん見てきました。

私自身も漏れなく、そんな壁にぶつかり続けた初期研修医の1人でした。
「なんでいつも正しい診断にたどり着けないのか…」
「どうして患者さんに上手く病歴聴取や病状説明ができないのか…」
「なぜスタッフと仲よくコミュニケーションがとれず、自分の評判はよくないのか…」

自分はこんなにたくさん医学書を読んで、同期の誰よりも勉強しているのに、あの同期みたいにスタッフや患者さんと仲よくなったり、上級医の先生みたいにかっこよく診断できないのだろうか？

理想の臨床医をめざして前に進むよう努力すればするほど空回りをしていくような、虚しい感覚に陥ることもありました。

そんな昔の自分と同じように臨床現場の"見えない壁"に何度もぶつかり、同じような悲しい顔をしている研修医達の姿を見ると、少しでも彼らに寄り添い、救うことができたらと思わずにはいられません。もちろん、私もまだまだ未熟で、めざすべき臨床医となれるよう力がながら前に進もうとする旅路の途中です。ですが、若手指導医となった今、以前は見えていなかった

"見えない壁"が私にも少しずつ見えるようになりました。研修医時代には、もちろん自分が何にぶつかっているのかもわからず、そんな壁が存在すること自体も知り得ませんでした。きっと後輩たちもみんな、かつての私と同じなのです。何が正しいのか、目標（ゴール）を見つけることができないうまま、がむしゃらにこの"見えない壁"にぶつかり続け、時に心と身体を傷つけながら、自覚もないままいつの間にか乗り越えている…それこそが臨床医として成長していくことなのかもしれません。でも、"見えない壁"の正体が早いうちにわかれば臨床研修をもっとうまく乗り越えられるのではないのでしょうか。

この本では、臨床現場に出てきたばかりでは意識することのできない"見えない壁"の正体を解き明かし、その壁を乗り越えるためのスキルやマインドを余すことなく解説していきます。本書は、医師国家試験を終えた医学生、臨床研修1、2年目の研修医を主な読者対象としており、この本を読むことで、医学生は将来臨床研修でどのようなスキルを身につけなければいけないのかわることができ、研修医や若手医師は臨床でうまくいかない状況や壁にぶつかったとき、どのように対処すべきかを考えるヒントを得ることができます。本書が、臨床現場という大海原で航海を始める、すべての研修医を導く羅針盤のような1冊となり、立派な臨床医をめざすという人生をかけた旅路を素敵にする助けになるよう、願いを込めて執筆しました。そして、少しでも臨床現場の解像度を上げられるよう、医師に加えて、ともに病院で患者さんのために働くたくさんのお職種の方々にヒアリングやアンケートでご協力いただきました。私達の熱い想いのこもったこの本を、多くの先生方に手にとっていただけたら嬉しい限りです。

最後に、このような類書の少ない難しいコンセプトの書籍の伴走を快諾してくださり、導いてくださったわが人生のアニキである高場先生、素敵な漫画やイラストを描いてくださいました角野先生、本書の企画・発刊まで誠心誠意取り組んでいただいた羊土社編集部の方々の深川正悟氏、清水智子氏をはじめ多くの編集部スタッフの方々、書籍の執筆にあたりヒアリングやアンケートにご協力いただきましたすべての方々に厚く御礼申し上げます。

2024年1月

広島大学救急集中治療医学所属 県立広島病院 整形外科

三谷雄己

正解のない、不確実な臨床現場における羅針盤

医師の道を歩み始めるすべての研修医にとって、臨床研修は壮大な航海の始まりです。三谷先生が述べたように、この航海では"見えない壁"に何度も直面します。本書は、そんな研修医たちが直面する課題に対応するにあたり、医師国家試験と現場のギャップを埋めてくれる指南書です。この"見えない壁"を乗り越えることこそが、医師としての成長につながります。

本書は、医師としての長い旅路の導入に過ぎません。「人生100年時代」、[VUCA時代*]と呼ばれる現代において、医療環境や自己の状況は常に変化し続けます。重要なのは、"あるべき状態（ビジョン）"を描き、自ら"見えない壁（問題点）"を発見し、それを乗り越える力を身に付けることです。これが本書でくり返し語られるコア・メッセージになります。本書が、不確実な現実の世界でその力を育むための羅針盤となることを心より願っています。

※ VUCA 時代とは、変動性 (Volatility)、不確実性 (Uncertainty)、複雑さ (Complexity)、曖昧さ (Ambiguity) が特徴の現代環境を指します。医療の世界では、技術の急速な進化、新興感染症などによる疾患構造の変化、医療政策の変動、患者さんの多疾患併存（マルチモビディティ）やニーズの多様化などが、患者さんの将来の予測だけでなく、医療現場の未来の予測を困難にしています。このような環境では「今まではこれで上手くいった」という過去の成功モデルが通用しなくなります。医学教育や臨床研修においても、受け身ではなく自分で「あるべき状態」を思い描き、「問題点」を解決していく姿勢が求められるでしょう。

2024年1月

JA 広島総合病院 救急・集中治療科
高場章宏